


## ジャコバイト辞典 (3)

浦田 早苗

### G

 **Gardiner, James, Colonel (1688-1745)** — ジェームズ・ガーディナー大佐



スコットランド人の職業軍人で、ブレンハイムの戦いなどで功をなした。1745年のジャコバイトの乱では竜騎兵を率い果敢な戦いをしたが、彼の住居近くで争われたプレストンパンズの戦いで斃れた。プレストンパンズには彼の記念碑が残されている。



  **Garron** — ガロン馬

小型で頑丈なスコットランド産農耕馬。政府軍及びジャコバイト軍は、足場の悪いハイランドでの荷馬として多用した。



 **Gentlemen's Cave** — 紳士たちの洞窟

スコットランド、オークニー諸島のウェストレイ (Westray) 島の断崖にある洞窟。1746年のカロデンの戦いに敗れた後、多くのジャコバイト兵士がここに隠れた。



### 🇬🇧 **George I of Great Britain (1660-1727)** — ジョージ1世

1698年、ハノーヴァー選帝侯位を継承する。母ソフィアは、ジェームズ1世の長女エリザベスの娘。スペイン継承戦争では神聖ローマ帝国連合軍元帥として活躍した。54歳でそれまで訪れたこともない英国の王位を受けたのは、第一に故国ハノーヴァーの軍事力増強のためである。英語が話せなかったが、英国の大臣とはラテン語で意思の疎通ができたという。



### 🇬🇧 **George II of Great Britain (1683-1760)** — ジョージ2世

戦場において指揮を執った最後の英国国王。1705年にブランデンブルク - アンスバッハ辺境伯の娘キャロラインと結婚し、3男5女をもうけた。政治的才覚はキャロラインのほうが優れていた。ウォルポールに政治を託し、ダウニング街10番地の邸宅を彼に与えたが、以後一時期を除いて、ここが英国首相公邸となる。



### 🇬🇧 **George III of Great Britain (1738-1820)** — ジョージ3世

1751年、父フレデリック・ルイスの死を受けて皇太子になり、1760年ジョージ3世として即位した。生粋の英国人国王として、ジョージ1世・2世の治世中に弱体化した国王大権の復活を目指したが、アメリカ独立戦争の敗北でアメリカ植民地を失った。晩年は精神障害に悩まされ、1811年以降は皇太子ジョージが摂政として国政を担った。



 **Gibraltar, HMS** — フリゲート艦ジブラルタル


1711年建造の、9ポンド砲20門を搭載した英国海軍軍艦。後に7年戦争中の敗北の責により処刑されたバイング (Bying) 提督が、最初に艦長になった船。1746年のカロデンの戦いには食料、弾薬をカンバランド公爵に届け、政府軍の勝利に多大な貢献をした。



 **Giffard, The Noble Seigneur Andrew** — ジファール

チャールズ・エドワードとクレメンティーナの間にできた娘、シャルロッテの洗礼名。名付け親はマリシャル伯爵の弟ジェームズ・キース。彼女の誕生はジャコバイトの間でもしばらく秘密にされた。



 **Gildart, Richard (1671-1770)** — リチャード・ギルダート

砂糖貿易で財を成したリバプールの商人。3度市長を務め、20年近く下院議員でもあった。奴隷貿易にも携り、多くのジャコバイトの囚人をアメリカ大陸に送り込んだ。



  **Gladsmuir** — グラズムアー

1745年9月21日、政府軍とジャコバイトの間で行われたプレストンパンズの戦いの実際の戦闘地。当時は何もない荒野であったため、プレストンパンズの住民の申し立てにより、戦いの名前にプレストンパンズが冠された。



### **Glen Shiel** — グレンシール

1719年のジャコバイトの乱で、6月10日キース率いる900名のジャコバイト軍と900の歩兵と120の竜騎兵4門の迫撃砲小隊からなる政府軍が戦った古戦場。戦いは3時間ほどで決着が付き、キース軍は政府軍に鎮圧された。戦いに加わったスペイン軍は、外国から遠征し英国本土に展開した最後の軍隊となった。グレンシールはまた、1746年のカロデンの戦いで敗れたチャールズ・エドワードが一時身を隠した場所でもある。



*The Battle of Glenshiel, 1719, by Peter Tillemans*

### **Glencoe** — グレンコー

スコットランド・ハイランド南西部の谷。ゲール語で嘆きの峡谷を意味する。17世紀後期ここでグレンコーの虐殺が起こった。



### **Glencoe, Massacre of, 13 Feb. 1692** — グレンコーの虐殺

1688年の革命で王位についたウィリアムは1691年8月、ハイランドの氏族長に忠誠の誓約をあくる1月1日までに提出するように求めた。しかし、突然の提出場所変更のため、マクドナルド氏族の誓約が期日に間に合わなかった。これを口実にグレンコーに住む400名のマクドナルド氏族粛清の命令が出され、78名が殺害されその他多くも逃げ込んだ山で凍死した。この虐殺に関与したキャンベル氏族はマクドナルド氏族の宿敵であった。この虐殺により、ハイランダーのジャコバイト化が急速に進んだ。



### **Glenfinnan** — グレンフィンナン

1745年7月25日、小型フリゲート艦ラ・デュテュイエ号から7名の従者と共にスコットランドに上陸したチャールズは、ハイランドの氏族長に挙兵を要請した。するとマクドナルド氏族、キャメロン氏族、マクドネル氏族など続々とハイランダーが集まり、8月19日ついにここグレンフィンナンでハノーヴァ朝打倒のジャコバイト軍の旗揚げをしたのである。これを記念した石造りの塔が、1815年アレキサンダー・マクドナルドによって建立され、公開されている。湖に広がる雄大な景色は、夏季に蒸気機関車ジャコバイト号の走る West Highland 鉄道の美しいグレンフィンナン高架橋と共に、映画ハリー・ポッター等にもしばしば登場する。



### **Glenbuchat Castle** — グレンブチャット城


スコットランドのディ川近くにある、1590年に建造されたグレンブチャット氏族の居城。1715年のジャコバイトの乱決起に際してマール伯爵ジョン・アースキンがここに立ち寄り、当時の城主ジョン・ゴードンと会合を持った。



### **Glenmoriston** — グレンモリストン

1746年カロデンの決戦に敗れたチャールズ・エドワードが逃れた村。この村にチャールズを逃がす時間を稼ぐため、身代わりとしてチャールズを名のり殺害された Roderick Mackenzie の墓と記念碑が置かれている。



 **Gloucester, Duke of, Prince William (1689-1700)** — グロスター公爵、ウィリアム皇子

アンとデンマーク王子ジョージとの子。生まれつき身体が弱く、階段を上がることも苦しかったが、知能は優れ神童と称えられた。11歳の誕生日に発熱し、その後数日で脳水腫のため死亡した。彼の死によって、王位はハノーヴァー家に移ることとなる。



 **Godolphin, Francis, 2nd Earl of Godolphin (1678-1766)** —

第2代ゴドルフィン伯爵、フランシス・ゴドルフィン  
1695年から下院議員。父とジョン・チャーチルは親友同士であり、20歳の時チャーチルの長女ヘンリエッタと結婚。1712年にゴドルフィン伯爵位を継ぐ。1735-40年に国璽尚書(Lord Keeper of the Great Seal)を務めた。



 **Godolphin, Sidney, 1st Earl of Godolphin (1645-1712)** — 初

代ゴドルフィン伯爵、シドニ・ゴドルフィン  
1665年から下院議員で財政の専門家。ウィリアムが英国に上陸するとすぐに軍に合流し、1690年-1697年および1700年-1701年に当時の首相職であった第一大蔵卿(First Lord of Treasury)を務めた。一人息子がジョン・チャーチルの長女と結婚する。1706年アン女王からGodolphin伯爵位を受けた。





**Gordon, John, of Glenbucket (1675-1750)**—ジョン・ゴードン

スコットランド・ハイランドの氏族長で名うてのジャコバイト。1689年、15歳でダンディ子爵のもとキリクランキーで、1715年の乱ではゴードン連隊を率いシェリフミューで政府軍と戦った。1745年の乱ではジャコバイト軍中將として、300名の氏族と共にカロデンの戦いに参加する。



**Grant, Patrick (1713-1824)** — パトリック・グラント

ジャコバイトの兵士で、1745年の乱では上級曹長としてほぼすべての戦場で戦った。カーライル城に収監されたが脱獄し、その後80年近い生涯を全うする。1822年にジョージ4世がエディンバラを訪問した際謁見し、陛下の最も年老いた敵兵と自己紹介したエピソードが残っている。



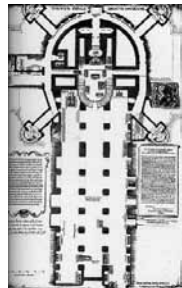
**Grays Mill** — グレーズミル

エディンバラ郊外にある水車小屋。1745年7月16日、チャールズ・エドワードは、ここでエディンバラ市長から入城の証として、エディンバラ市の鍵を受け取った。



**Grotte Vecchie** — グロッタ・ベッキオ

ローマ、ヴァチカン市国のサンピエトロ大聖堂地下聖堂の古い部分。ここにジャコバイトのジェームズ3世(ジェームズ・エドワード)、チャールズ3世(チャールズ・エドワード)、ヘンリ9世(ヘンリ枢機卿)の墓所がある。





### Guadagni, Pallozo, Florence — グァダーニ宮

チャールズ・エドワードが、晩年再婚したルイーゼ妃との生活を送るため1777年購入したフィレンツェの館。ここでの二人の生活は3年しか続かなかった。1784年から、チャールズの庶子シャルロットもここに住んでいた。



### Guérin, Pierre-Paul de Tencin (1679-1758) — ピエール・ゲ

ラン

フランスの聖職者で、1721年から1743年までヴァチカン大使。1740年に枢機卿になり、1743年からフランスの大臣も務めた。ジェームズ3世とも親交が厚く、チャールズ・エドワードが計画した1745年のジャコバイトの乱を事前に知っていた唯一のフランス大臣であった。



### Gunn, Clan — クラン・グン

スコットランド、オークニー諸島の氏族。1745年のジャコバイトの乱では族長アレクサンダー・グンは、独立ハイランド監視兵連隊大尉として、政府側についてジャコバイトと戦った。



### Gustavus III of Sweden (1746-1792) — グスタフ3世

チャールズ・エドワードは晩年31歳年下のルイーゼと結婚したが、アル中の彼のDV から逃れるため、結婚生活は数年で破綻した。1784年、スウェーデン国王グスタフ3世のチャールズへの説得と多額の援助により、ルイーゼは晴れてチャールズから離れることができた。





## H

### **Hamilton, James Douglas, 4th Duke of Hamilton (1658-**

**1712)** — 第4代ハミルトン公爵、ジェームズ・ダグラス

スコットランド有力貴族で、初代セルカーク伯爵の長男。ハミルトン公爵位は母、第3代ハミルトン女公爵から譲り受ける。1679年にジェームズ2世の御寝所係官に任じられ、以後ジェームズに忠誠を誓う。ウィリアムの治世下、陰謀の疑いで2度ロンドン塔に収監されたが、いずれも釈放されている。



### **Hamilton, William (1704-1754)** — ウィリアム・ハミルトン

スコットランドの詩人で、古代ギリシャのホメロスを最初に英訳したジャコバイト。1745年のプレストンパンズの戦いからチャールズ・エドワード軍に加わり、カロデンの敗退後フランスに渡る。後に恩赦が与えられたが、療養のためフランスのリヨンで客死した。



### **Hanover, House of (1714-1901)** — ハノーヴァ朝

アン女王の崩御後の英国の王朝。ドイツのハノーファー選帝国内(後に王国)と同君連合をとったが、ハノーファーが女王の継承を認めていなかったため、1837年のヴィクトリア女王即位により、同君連合は解消された。ヴィクトリアの血統が続いているので、現在のウィンザー朝と継続しているとみなされることがある。




 **Haughs of Cromdale** — クロムデールの低湿地

1690年にジャコバイトと政府軍の間のクロムデールの戦いが行われたスペイ川畔の湿地。ダンケルドの戦いに敗退した後、サー・ユウェン・キャメロンは800名のジャコバイト軍で、政府スコットランド騎兵連隊に対峙した。このクロムデールの戦いでジャコバイトは400名の死者を出し、スコットランドにおけるジャコバイトの勢いは削がれた。



Sir Ewen Cameron

 **Hawley, Henry, General (1679-1759)** — ヘンリ・ホーリ將軍

ウェード元帥の後任のスコットランド守備軍総司令官。1746年1月17日ファルカークの戦いでジャコバイト軍に敗れたが、カロデンの戦いでは騎兵連隊を指揮した。勇猛ではあったが、品格に欠け、ジャコバイトを吊るし首にするのが好みであったため、ハングマンの渾名がつけられた。



 **Hay, John, Earl of Inverness (1691-1740)** — インヴァネス伯爵、ジョン・ヘイ

スコットランド有力ジャコバイトであるマール伯爵の甥で、1715年のジャコバイトの乱に加わった。乱の敗退後はサンジェルマン・アン・レイのジェームズ3世の亡命宮廷の重臣として仕える。1723年にはブラッセルでフランス・アタベリと会見し、1725年に亡命宮廷國務大臣になった。





**Hay, Charles Stuart (1799-1880)** — チャールズ・スチュアート・ヘイ

19世紀中頃兄と共にジャコバイト兵の格好をして、チャールズ・エドワードの孫を自称し、自らの正統性を *Tales of Century* という本に著した人物。



**Henry IX, Benedict Maria Clement Stuart, Cardinal-Duke of York (1725-1807)** — ヘンリ9世、ヨーク公爵枢機卿

ジェームズ・エドワードの息子でチャールズ・エドワードの弟。ジャコバイトからはヘンリ9世と称されたが、自身は枢機卿として生涯を終え、英国王位の要求をしなかった。1789年フランス革命が勃発し、フランスにある資産を差し押さえられて仏王家からの援助が途絶えると、時の英国国王ジョージ3世は4,000千ポンドの年金を彼に与えた。



**Hessians** — ヘッセン連隊

ドイツ、ヘッセン大公国の傭兵部隊。1715年のジャコバイトの乱に際して、ジョージ1世は12,000名のヘッセン連隊を雇った。1744年のオーストリア継承戦争では6,000名のヘッセン連隊が英国政府に雇われていたため、1745年のジャコバイトの乱勃発後、カンバラント公爵は迅速にヨーロッパ大陸から英国に駆けつけることができた。



## **Highbridge Skirmish, 16 August 1745** — ハイブリッジの

### 戦い

スコットランド・ハイランドのスピン川にかかるハイブリッジで争われた、ジャコバイトと政府軍の戦い。1745年のジャコバイトの乱の挙兵は8月19日にグレンフィナンで行われたが、チャールズ・エドワードはすでに7月25日にスコットランドに上陸を果たしていた。スコット大尉に率いられた王立スコットランド2連隊85名と、ジャコバイトのマクドナルド氏族・マクドネル氏族50名がこの橋で対峙した。政府軍は16名の死傷者をだし、負傷したスコット大尉は降伏した。この戦いが、1745年のジャコバイトの乱の最初の戦闘とされる。



## **Hogarth, William (1697-1766)** — ウィリアム・ホガース

18世紀英国を代表する画家。『放蕩息子のなりゆき (A Rake's Progress)』などの連作風刺版画や、ジン法案を皮肉ったジン横丁 (Beer Street and Gin Lane) など人気を博した作品を多く生み出した。



右 図； *March of the Guards to Finchley*, by William Hogarth,

1745年のジャコバイトの乱に際し、ロンドンの守備に向かう英国連隊の軍紀の乱れを風刺している。



**Holker, John (1719-1786)** — ジョン・フルカー

マンチェスターの実業家で、1745年のジャコバイトの乱でチャールズ・エドワードがマンチェスターに入城すると、自らジャコバイト軍中尉としてこの町で挙兵した者を指揮した。カーライルで捕らえられたが、刑務所から脱獄してフランスに渡る。後にフランス政府の要請により、英国で熟練工と最新の織物機を集めてフランスに戻り、フランス有数の産業者となった。



**Hume, John (1722-1808)** — ジョン・ヒューム

18世紀スコットランドの政治家で劇作家。代表作は *Douglas* で、1745年のジャコバイトの乱には志願兵として加わり、ファルカークの戦いで捕らわれたが脱獄する。当時の首相ビュート伯爵の秘書官を務める。後に取材に基づいた著作 *A History of the Rebellion of 1745* を著した。



**Hotel De Serre** — オテル・デセール

フランス、アヴィニョンにおけるジェームズ3世の亡命宮廷が置かれた場所。亡命宮廷の構成員はわずか33名であったが、エクス・ラ・シャペル条約によってジェームズがフランスからローマにむかう1717年2月には、ここに1,500名を超えるジャコバイトが集まった。



 **Hound, HMS** — 戦艦ハウンド


14門の砲を備えた英国軍艦。第3代クロマティ伯爵の息子ジョンは、1745年のジャコバイトの乱に参加しカロデンの戦いで政府軍の捕虜となり、この帆船に収容された。ジョンは釈放後スウェーデンで軍役に就き、後に英国海軍中將にまで昇進した。



 **Hulks** — 囚人船

カロデンの戦いで捕らわれたジャコバイトの多くは、テムズ川に浮かぶ囚人船に収監された。



 **Hyde, Anne (1637-1671)** — アン・ハイド

初代クラレンドン伯爵の長女で、ヨーク公爵ジェームズの最初の妻。メアリ2世とアン女王の母でもある。4人の男児をもうけたが、すべて夭折した。ジェームズの王位継承以前に死去したため、英国王妃にはなれなかった。1670年に英国国教会からカトリックに改宗した。



# I

## **Indentured Servants** — 年季奴隷

1745年の乱で捕らわれた多くのジャコバイトは、アメリカ大陸のプランテーション労働に従事する年季あるいは終身奴隷として最低価格7ポンドでオークションにかけられ、スコットランド人の農場主に買われていった。彼らは主として、新大陸のカロライナや西インド諸島におくられた。



## **Independent Highland Companies, The (1603-1760)** — 独立ハイランド連隊

スコットランド・ハイランドの治安維持のため、ハイランドの氏族によって組織された政府連隊。1725年にはウェード元帥によって、キャンベル3連隊、グラント、モンロー、フレザーの6個のハイランダー監視兵連隊として再組織された。纏っていたタータンチェックの色から、Black Watch と呼ばれていた。



*The Battle of Glenshiel, by Peter Tillemans*

(1719年のグレンシールの戦いでのモンローとグラント連隊)

## **Innocent XI (1611-1689)** — ローマ教皇イノセント11世

1688年10月、ジェームズ2世の誕生したばかりの皇太子の洗礼を行う外交大使をセント・ジェームズ宮に派遣した教皇。ジェームズ2世の英国でのカトリック改宗政策が拙速であると、批判していた。





### **Innocent XII (1615-1700)** — ローマ教皇イノセント12世

1692年のジャコバイトの乱に際し、ジェームズ2世が支援を仰いだ教皇。92年の乱は、英仏海峡における英国海軍の勝利により潰えた。高位聖職者の贅沢を禁じ、教皇庁の風紀を正した教皇でもある。



### **Inverary Castle** — インベラリー城

スコットランド、アーガイルにある、キャンベル氏族の居城。1745年のジャコバイトの乱の際には、第3代アーガイル公爵の下、キャンベル氏族は5,000の構成員を数え、政府軍の中核をなした。現在は幽霊が出没する城として知られている。



### **Invergarry Castle** — インベギャリ城

1640年に建造されたマクドネル氏族の城。マクドネル氏族は1689年のダンディ子爵蜂起に際してジャコバイトの側についたため、城は没収された。チャールズ・エドワードは1745年グレンフィナンで挙兵した後、この城を陥落させここに数日滞在し、またカロデンの戦い敗北後にもこの城に一時立ち寄っている。



### **Inverness**—インヴァネス

ローランドの首都エディンバラに対し、ハイランドの首都と言われる都市。1715年のジャコバイトの乱で占拠されたため、1727年にFort Georgeが最初ここに築かれたが、1746年にジャコバイトによって陥落させられた。





 **Inverness Castle** — インヴァネス城

インヴァネスの街を見下ろす丘に建つ城。1715年のジャコバイトの乱では、ジャコバイトのマッケンジー氏族の城であったが、政府側のサイモン・フレー




ザーに攻落された。1745年のジャコバイトの乱では、ジャコバイト軍によって占領された。インヴァネス城の正面に建てられたフローラの像は、スコットランドに必ず戻るというチャールズの言葉を信じ、今日も悲しげにフランスを仰ぎ見ている。



 **Inversnaid Fort Barracks, The Garrison** — インヴァスネイド・バラックス

1715年のジャコバイトの乱の経験から、1718年から19年にかけて造られたハイランド鎮圧のための軍隊を収容する兵舎のひとつ。ローモンド湖近くに位置し、1745年にはジャコバイトのジェームズ・マクレガーによって攻落された。



 **Inverurie, Battle of, 23 December 1745** — インヴェルリーの戦い

1745年のジャコバイトの乱の中で、政府側第3代ゴードン公爵の弟ルイス・ゴードン卿が起こした戦い。スコットランド、アバディーン近くのインヴェルリーの野で、900名のジャコバイトが500名の政府軍を完膚なく打ち破り、50名の捕虜を得た。



## J

### **Jacobite Court in exile** — 亡命ジャコバイト宮廷

1688年の革命で王位を奪われたジェームズ2世はフランスのルイ14世の庇護を受け、パリ郊外にある Saint-Germain-en-Laye 城を亡命宮廷の場として与えられた。その後1713年のスペイン継承戦争の和約により、ジャコバイトの宮廷はアビニョン、ボローニャを経てローマに落ち着くことになる。



### **Jacobite Glass** — ジャコバイトグラス

1745年のジャコバイトの乱後、ジャコバイトたちはその信条を隠さなければならなかった。彼らはジャコバイトのシンボルを刻んだグラスを作り、それでジャコバイトの大儀に乾杯をした。現在およそ2,000のグラスの所在が確認されているが、最も多いのがジャコバイトローズを彫ったものといわれている。オークションでは、数百万円で取引されるものもある。



### **Jacobite Lineage** — ジャコバイトの血統

チャールズ・エドワードの弟ヘンリ枢機卿の死後、スチュアート朝は、ジェームズ2世の妹ヘンリエッタ・アンの血筋からサヴォイア公 Carlo Emanuele IV に、その後は弟の Vittorio Emanuele I (右図) に継がれ現在に至っている。





**Jacobite Plot of 1690** — 1690年のジャコバイト陰謀計画

1688年の革命後フランスに渡ったジェームズ2世は、1689年3月12日王位奪還のためフランス軍を率いアイルランドに上陸し進撃を続け、3月24日にダブリンに入城してアイルランド議会を召集した。1690年6月のビーチ・ヘッドの海戦でフランス軍が大勝利を収めドーヴァー海峡の制海権を握ると、アイルランドのジェームズ軍に呼応する形でフランス軍の英国侵攻が計画されたが、手筈が整わない内にその計画が発覚し潰えた。



*Battle of Beachy Head, by Theodore Gudin*



**Jacobite Plot of 1692** — 1692年のジャコバイト陰謀計画

1692年4月、画策されたジャコバイト・クーデター計画。24,000余のジャコバイトーフランス連合軍が英国に上陸すると同時に、ジョン・パーカー將軍率いる8,000の反乱軍が蜂起するというものである。この時、ジェームズ軍の上陸が果たされていれば、革命は覆された可能性が高かったとされているが、5月19日から23日にかけて戦われた英仏海峡における英海軍の勝利によって、ジャコバイトの夢は水際でくいとめられた。



*The Battle of Barfleur, 19 May 1692, by Richard Paton*

### **Jacobite Plot of 1694** — 1694年のジャコバイト陰謀計画

「ランカシャ陰謀事件」とも呼ばれるジャコバイト蜂起計画。1694年、ウィリアム3世の英国王位正統性の盾であったメアリ2世が死の床に伏せるようになり、ウィリアム3世の王位を認めない者の声が次第に大きくなっていった。ジャコバイトはこの機を捉えクーデターを策定するが、準備の整わないうちに発覚する。しかし、数多くの証拠があるにもかかわらず、人心の沈静を図る政府の思惑によって、この計画の首謀者は10月の巡回裁判で無罪とされた。




### **Jacobite Plot of 1696** — 1696年のジャコバイト陰謀計画

「フェンウィック陰謀事件」と呼ばれるウィリアム暗殺計画。フランスは、アウグスブルク同盟戦争での劣勢を挽回するためにジャコバイトを利用しようと企み、96年2月にジェームズ2世の庶子パーウィック公爵をクーデター準備のため渡英させた。しかし、彼が母親のアラベラを訪ねたことから計画は発覚し、首謀者の一人ジョン・フェンウィックが逮捕された。フェンウィックは審理のなかで陰謀に関わった者の名前をあげたが、そこにはウィリアムの英国王位を画策したチャーチル、招聘状にサインしたラッセル、シュールズベリと並んで当時の首相職であった大蔵卿ゴドルフィン

の名前もあった。メアリ2世の妹アン王女にも累が及びそうになったため、結局、事件全体の説明が十分になされないうちにフェンウィックが1697年1月に処刑され、陰謀事件はうやむやのうちに収束に向かった。



**Broadsheet from the Jacobite assassination plot 1696**

 **Jacobite Plot of 1703** — 1703年のジャコバイト陰謀計画


英蘇の関係が悪化した1703年、5,500名からなる仏軍が20,000丁の銃器を携えスコットランドに上陸、ハイランドの族長と呼応しジャコバイトの乱を起こすという計画。計画は発覚し、未遂に終わったが、この陰謀計画がイングランド議会に与えた衝撃は大きく、この直後、軍隊の質と量を充実させるため、治安判事による強制徴兵を認めた「徴兵法 (Act for raising Recruits)」が制定され、英国の軍事大国化が決定付けられた。



 **Jacobite Plot of 1708** — 1708年のジャコバイト陰謀計画

1707年の連合王国誕生によるスコットランドにくすぶる不満に乗じた、ジェームズ・スチュアートによるクーデター計画。1708年3月スペイン継承戦争に劣勢のフランスは、英国に圧力をかけるため6,000の軍勢をジェームズ・エドワードに預けた。30隻の軍艦はスコットランドエディンバラを臨むフォース湾上陸を目指したが、指揮系統の不手際と嵐も重なって英国海軍との戦闘に破れ、英国への上陸を果たすことができなかった。



 **Jacobite Plot of 1718** — 1718年のジャコバイト陰謀計画

1718年に生じたジェームズ・シェパードによるジョージ1世暗殺計画。シェパードは商人の息子であったが、学生時代に1715年の乱に共感しジャコバイトになる。1718年にジョージ1世暗殺を単独で計画するが、未遂のうち捕えられ、同年3月にニューゲート刑務所で処刑された。

